

# 公立大学法人福岡県立大学

## I 全体評価

公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡県立大学は、平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、3事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和2年度の評価にあたっては、前年度評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目全て（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、福岡県立大学では、専門的職業人としての能力の育成はもとより、全学横断型教育プログラムの充実に取り組むとともに、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談・支援事業、学習ボランティアの派遣等、地域貢献活動を積極的に実施している。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けることとなったが、年度当初からいち早く遠隔授業を導入するなど、迅速かつ機動的に対応し、教育研究への影響を最小限にとどめることができた。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の令和2年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡県立大学は、これまでに地域と連携した取組で優れた成果をあげている。

引き続き、地域貢献活動等の取組を一層推進するとともに、教育研究の充実に向けた取組を推進し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

## II 項目別評価（中期目標項目別評価）

### 1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対

#### 応できる人材の育成

- ・コロナ禍において、新入生に対するオリエンテーションで情報処理機器等の最低限の使用方法を指導したうえで、導入教育科目を遠隔授業形式で実施し、他の授業科目を学習する基盤を維持した。また、教養演習テキストの改訂や語学教育の強化に取り組むなど、教養教育の充実に取り組んでいる。
- ・人間社会学部において、社会福祉士・精神保健福祉士の新カリキュラムに向けて実習・演習を充実させた実施計画を策定するとともに、総合人間社会コースにおいて、キャリア形成に関する新規科目を開講したほか、所定の条件を満たす学生には「学修証明書」を交付するルールを策定した。
- ・看護学部において、新たにOSCE（客観的臨床能力試験）を用いて看護技術強化を図るとともに、学内に模擬病室やシミュレーションルームを整備するなど実習教育を充実させた。
- ・看護師、保健師、精神保健福祉士等の各種国家試験合格率が、高水準を維持している。

#### (2) 高度専門職業人の人材育成

- ・大学院生を対象とした満足度調査や座談会を実施し、改善を図ることにより、大学院修了時の調査で「総合的な学修成果の満足度」が高い結果となるなど、大学院教育の充実を図っている。

#### (3) 教育活動の活性化

- ・教員を対象とした遠隔授業に関するセミナーや授業参観ウィークの実施等、ファカルティ・ディベロップメントを推進するとともに、成績評価の適正さを確認するためのアンケートの作成や電子シラバスの整備など、教育活動の活性化に努めている。

#### (4) アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保

- ・コロナ禍において、オンラインによるオープンキャンパスや個別相談会を活用して入試広報活動に取り組み、志願倍率が目標を大きく上回っただけでなく、合格者の出身地域の拡大にも繋がった。
- ・県立西田川高校と連携教育に関する協定を締結し、大学の授業を受講した高校生が、高校及び大学の双方で単位認定されることを可能にするなど、高大連携の取組を図っている。

#### (5) 学生の学修支援と生活支援

- ・コロナ禍における全学的な遠隔授業を行うための環境を整備するとともに、eラーニングコース開設数を大幅に増加させ、学生利用率も上昇した。
- ・学生支援の窓口を一本化するため、新たに学生総合支援センターを開設した。

#### (6) キャリア支援

- ・キャリアマネジメント関連科目やプレ・インターンシップを充実させるとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止のため個別進路相談や就職説明会等を工夫して行うなど、きめ細かなキャリア支援に取り組み、就職率が高水準を維持してい

る。また、就職・キャリア支援業務を一体化するため、新たにキャリアオフィスを設置した。

## 2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・附属研究所において、学際的研究プロジェクトを推進するとともに、地元自治体との共同研究を開始した。また、研究機能を強化するため、研究所組織の見直しを行っている。
- ・科学研究費補助金等の応募件数、獲得件数ともに目標を上回っており、外部研究資金の獲得に努めている。
- ・研究水準の向上を図るため、研究費の配分を見直し、重点領域研究の範囲の拡大、科学研究費申請補助の対象の拡大を行った。

## 3 地域貢献及び国際交流

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・看護師、社会福祉士等の資格・免許保持者等を対象に、専門分野を深めるためのリカレント教育や研修の実施に努めている。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターの相談件数が3,500件を超えているほか、キャンパス・スクール事業における登校開始率が過去最高となった。また、コロナ禍における新たな取組として、不登校児童生徒と学生ボランティアをテレビ会議システムでつないだ支援を行うなど、不登校・ひきこもりへの支援を積極的に行っている。
- ・地域教育支援プロジェクト「土曜の風」において、地域の補充学習の場に学生を学習ボランティアとして派遣した延べ人数が1,400人を超えるなど、学生の社会貢献・ボランティア活動を積極的に支援している。
- ・防犯ボランティアサークル「オリオンズ」が、県警から「犯罪の起きにくい社会づくり」に多大な貢献をしたことにより団体表彰を受けた。また、県警主催の福岡ムービーアワード2020においてオリオンズ制作の「夜道の安全」が最優秀賞を受賞した。

## 4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・看護師を対象とした特定行為研修を令和3年度から開講するための研修室整備を行うとともに、学内実習を充実させるためのシミュレーションルームを確保するなど、学内施設を有効に活用している。
- ・遠隔授業導入に際し、ITに関する学生及び教職員からの相談対応、遠隔授業に関する学生アンケートに関する助言・指導等の業務委託を行い、事務の大幅な効率化を行った。

## 5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科学研究助成事業に関する研修会を開催するだけでなく、当該研修会を録画し、教員がいつでも確認できるようにするなど、教育等に関する外部資金の獲得に努め、獲得額も目標を上回っている。
- ・教務システムの改修や業務委託の見直しにより経費削減に努めた。

## 6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学内における各種取組の現状や課題を明らかにするため、取組のPDCAに関する記載書式を新たに設定したほか、大学の内部質保証を機能させるために組織体制を整備し、大学改革セミナーの開催を通して全学での取組を進めるなど、内部質保証システムによる大学の質の維持・向上に取り組んでいる。
- ・大学ホームページ等で高校訪問、入試説明会等の機会を通じて、大学の情報を広く発信しているとともに、大学内の新型コロナウイルス感染症の関連情報も発信するなど、学内情報のオープン化に努めた。